

令和2年度 第3回那賀高等学校 学校運営協議会 協議等の概要

1 日 時

令和3年2月19日（金）午後3時から午後4時10分まで

2 場 所

那賀高等学校 大研修室

3 活動報告

- ・ 大塚製薬株式会社との取組成果について

2月18日（木）、大塚製薬株式会社の桑原拓都氏をお招きし、1年生全員を対象とした進路講演会を開催した。桑原氏は今年入社した新人社員であり、誠実な話し方に加え、生徒と年齢も近いことから、生徒の進路意識を高揚させるすばらしい講演会となった。

4 協 議

(1) 学校評価総括評価表について

初めに、学校評価の法的な根拠や那賀高校における学校評価の取組の流れについて説明し、学校運営協議会での評価が、那賀高校にとっての「学校関係者評価」となることについて委員の方々から了承を得た。

次に、学校経営方針の重点目標に沿って学校評価計画が作成されることや、今年度はコロナ禍の影響で4月から5月にかけて臨時休業となったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により修学旅行の中止をはじめ、様々な学校行事が中止・縮小されたことで、評価ができない項目があったことを説明した。また、臨時休業の影響により、1年生の中には高校生活に適応しにくい生徒が見られことや、このように教育活動が制限される中でも、生徒がよく頑張り、3年生の進路等では成果を上げることができたことなども報告された。

(2) 各委員からの提言等について

学校評価総括表の内容について各委員から建設的な提言をいただいた。

ア 企業でも評価を行っているが、高校での評価は非常に多岐に渡っている。評価Bの項目が多いが、高校はよく頑張っているのも、もっとAがたくさんあっても

いいと感じた。

イ 中学校との連携においてテレビ会議を活用しているのだから、Cではなくもっとよい評価でもよかったのでは。また、那賀高校は防災活動なども積極的に取り組んでいるので、評価はAでよかったのでは。

特別な支援が必要な生徒に対してよく取り組まれていると思うが、そうした生徒の就職先の確保など、進路支援について継続して行ってほしい。

ウ 臨時休業の影響で、不登校傾向になった生徒に対して、一人一人のケースに応じた指導を行ってほしい。

エ 遅刻・欠席が増加したことについては、事例分析をしっかりと行い、次年度の取組に活かしてほしい。

オ 寮の取組に関しては、評価をAにしてもよかったのでは。ただでさえ忙しい中で、寮生活まで指導していることに驚いている。

また、次年度の計画を作成する際には、コロナ禍の影響が継続することを視野に入れて作成するべきである。さらに、環境問題なども学校全体として取り組んでいくべきではないか。

カ 学校評価では適切な数値目標を設定することも重要である。那賀高校は少し厳しめの目標設定をしている気がするので、前年度の取組に対する評価を参考にしながら、数値目標を設定してもいいのでは。

5 その他（事務連絡）

- (1) 令和3年度那賀高等学校運営協議会における委員の継続と、年3回開催し第1回は5月中を目途に開催することを確認した。
- (2) 今年度は「進化する教室イノベーション事業」により、ホームルーム教室9クラスに電子黒板が設置され、教育活動に大きく役立ったこと、来年度は「徳島県GIGAスクール構想」により生徒一人一人に1端末が配付される予定であることなどを説明した。
- (3) 「2020全国コミュニティ・スクール研究大会（栃木デジタルフォーラム）」の開催について紹介した。
- (4) 「全国コミュニティ・スクール連絡協議会 会報 No. 14」について紹介した。